

講義名	対)問題解決ツール			
担当教員	持田 信治			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

本講義は企業活動における課題解決と問題分析手法の理解を深めることを主題とする。更に本講義の主題は本学のデイトラボラシに沿って、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることである。企業や組織の運営では様々な問題に直面する。そして問題解決のための効果的かつ具体的な解決方法が求められる。そして問題解決では問題を数値的又は可視化して分析して問題の本質を特定することが求められる。そこで、本講義では問題を分析して解決するための基本的なツールの説明を行い、問題を数値的又は可視化して問題のポイントを特定する力を養い、更に組織の部員と問題を共有するための問題分析、把握能力の習得を目指す。また、本講義では具体的な問題解決事例による演習を通じて問題解決法の活用手法も学ぶ。

**到達目標**

本講義はパソコンを使用した対面授業を前提としており、オンデマンド講義はできない。但し、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には講義を収録したビデオを視聴による授業を行う。以下を本講義の到達目標とする。

(1) 問題解決とは何か、また問題解決手順を説明できる。  
(2) 問題解決に必要な基本的な手法を利用して、問題の本質の特定ができる。  
(3) 企業や組織に於ける問題の種類や性質の特定ができ、具体的な解決方法を実行できる。

**提出課題**

講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。また、講義内容に関するレポートの提出を要求することがある。小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて次の講義で解説と説明を行う

**評価の基準**

(1) 評価は講義への参加割合と課題の提出状況により算出する。  
(2) 授業参加度50点、小テスト又は課題50点で評価する。  
(3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。  
(4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

**履修にあたっての注意・助言他**

(1) 授業の活用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明するので、履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。  
(2) 筆記用具を準備しておくこと。  
(3) 講義中の私語、飲食、カバンや飲食物を机の上に並べること及び途中入室、途中退室、携帯電話の使用は厳禁とする。ルール違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じられることもある。  
(4) 対面講義においては疑問を行う等の積極的な参加を期待する。  
(5) オンラインに資料が取り付けられている時は事前に確認しておくこと。  
(6) 講義への積極的な参加を希望する、また講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

教科書	.使用しない。 .			

**プリント資料及び参考文献**

必要に応じて、教材をポータルにUPする。  
参考文献は以下の通り。  
Excelでいっでも使えるQC七つ道具と新QC七つ道具、今里健一郎・高木製作、日本規格協会2900+税金  
これだけ!統計解析。今里 健一郎 秀和システム 1500円+税金

**授業計画**

第1回 問題とは  
第2回 組織に於ける問題  
第3回 問題解決方法  
第4回 データ分析の実際  
第5回 チェックシート  
第6回 線形モデルと回帰分析  
第7回 重回帰分析  
第8回 数量化 階級分析  
第9回 言語データの分析  
第10回 言語データの分析その2  
第11回 問題の要因分析  
第12回 線形計画法その1  
第13回 線形計画法その2  
第14回 正場分布  
第15回 まとめと演習

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実験、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

シラバスに従った予習と配布された講義内容に基づいた復習を期待する。講義の参加に当たって、予習1時間と復習に1時間の自己学習が必要である。当該講義及び前回の講義内容について、小テストを行うこともあるので、授業後に復習を行うこと、講義に関連した小テストや課題は講義では説明をしていない関連項目に及ぶこともあるので講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

マネジメント力や問題解決手力は現代の企業経営に不可欠であり、マネジメント力や問題解決手力は現代の企業経営の証拠主義に不可欠である。従って、本講義を履修することにより本学のデイトラボラシに於ける、企業経営や組織行動に従って発生する課題や問題に対する、具体的な改善策や解決策を身に付けることができる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

「実務経験あり」  
過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、課題解決に向けたポイントを解説する。

**備考**

自手法の特徴を理解して、問題解決の自プロセスで手法の活用できるようになること。  
QC検定4級や3級を受検する者は本講義の履修が望ましい。